



2016年(平成28年)
3月号(No. 850)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

大久保副会長を囲んで〜若手女性会員が集う
「大久保春美副会長を囲んで、懇話会をしよう。登山について、人生について聞きたいことが山ほどある」というメッセージがYOUTH CLUBから寄せられた。大久保副会長からの返信は「皆さんからの話こそ、聞かせてほしい」と。こうして囲む会が始まった。

土井 本日は大久保春美副会長を囲んで、YOUTH CLUBに所属する女性会員たちに集まってもらいました。それぞれが普段思っていることを素直な気持ちで、ご自身の言葉で話してもらえたらと思います。最後には、私たちが向かうべきところ、未来はどのようにしていきたいという目標がまとまればよいと考えています。

日に関連する事業と支部活性化事業です。7月10日にマナスル初登頂と「山の日」施行に関連づけた事業を行います。これについてもマナスル初登頂の歴史を振り返るだけでなく、若い人たちを惹きつける内容にしたいと考えています。若い会員を引っ張るのではなく、後押しする係になりたいと思っています。いるんですよ。

女性がリーダーとして

土井 女性初の支部長、女性初の副会長と伺いました。

大久保 ほかの団体でも女性初の



紙面には収めきれないほど話が弾む

役職を引き受ける機会があります。けれど私自身は、「初」をねらったわけではなく、たまたまの巡り合わせです。常任理事は責任が大きいです。会としても重要な意思決定権があり、主要な道筋をつける役割です。私のあとも、女性が活躍できる会にしていきたいですね。

越智 リーダーは、経験も必要ですし、どういうタイミングでリーダーを担うようになったのですか。

大久保 リーダーシップは登山から学んだのだと思いますよ。今の時代は、前例になることがたくさんあります。

私は、日本山岳会隊のカメットやケダルナートで女性だけのチームを経験しました。カメットは日本とインドの合同隊だったので、政治的側面を含めいろんなことがありました。ケダルナートの仲間は、30年経った今でも皆仲よしなんです。準備のときに、婦人懇談会の大先輩たちが、メンバーが気持ちよく登ることができ、かつ目的を達成するためにはどのようなプロセスを踏んだらよいか、アドバイスをくれたり、真剣なミーティングをしました。

目次

大久保副会長を囲んで〜若手女性会員が集う・・・	1
視覚障がい者と山に登る・・・	4
『3.11』から『8.11』へ・・・	6
国際委員会の新設と海外委員会およびJAN編集委員会解散のお知らせ・・・	8
マナスル初登頂60周年および国民の祝日「山の日」施行記念事業のご案内・・・	8
プラハ国際アルピニズム・フェスティバル2015・・・	9
東西南北・・・	10
支部だより・・・	12
北海道支部／越後支部	
新入会員・・・	13
図書紹介・・・	14
図書受入報告・・・	16
会務報告・・・	17
ルーム日誌・・・	18
会員異動・・・	18
INFORMATION・・・	18
編集後記・・・	19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木・・・10～20時
水・金・・・13～20時
第2、第4土曜日・・・閉室
第1、第3、第5土曜日・・・10～18時



大久保副会長。仕事と子育て、山の両立についての話題も

登山の多様性と広がり

登山隊にせよ、仕事にせよ、みんなが同じ目標を持ったときは、まず親しくなって、この人はこういう人だと、相手の力量も、良いところも悪いところも認め、まずは受け止めるようにしたいですね。そうすれば、信頼関係も築いていきます。リーダーシップも同様、一方的なものではありません。チームメイトたちとの双方向の信頼関係が土台となります。

新井 登山を考えると、いかに難易度の高い山を目指すかという、成果を求める傾向が目につきます。技術を磨いて高い山に登り、スポーツとしての成果を出す。そうした競争意識は登山技術・経験のレベルを引き上げることにもつながりますが、「山の日」を前に、もっと広い意味での登山の楽しみ方が浸透することを期待しています。

大久保 日本ではスポーツというと競技スポーツが主たるものと考えられがちです。しかし、もともと身体活動があつてよいと思う。成果、結果を評価することがスポーツではなく、楽しく身体を動かすことができれば、それがスポーツ。ここにいる皆さんは、山のなかに身を置き、そして自分を見つめるという行為をしているのだと思います。それが素晴らしいな。

新井 登山の魅力がそのように広がっていくとよいですね。楽しみ方は多様でいいと思います。

田沼 初めて山に登ったときの感動が忘れられず続けてきています。JACで雪山講習会をやっているのを見つけ、入会しました。当時は青年部しかなかったから、青年部に所属。ロープを使う登山が多

く、たまにはのんびり歩きたいなと思うこともあります。技術向上を目指すのも大切だけど、それだけでは、疲れてしまいますね。

杉本 私は高い山を目指しているわけではなく、歩くことを楽しみたい方なので、大久保さんが取り組んでいらっしゃるロングトレイルや巡礼にも興味があります。登山のいろんな魅力を知りたいですね。JACでやれること、やりたいこと**土井** ところで、JACにはたくさんの方々がいますね。

杉本 私も入会して初めて知りました。皆さん、ボランティアですね。

新井 私は図書委員会に所属しています。膨大な山岳図書や記録は本会の大きな財産ですが、勤め人の若い会員は、開館時間内に図書室を利用するのが難しく、図書室を利用したことがない方も多い。蔵書をいかに活かしているかは今後の課題と感じています。

ハウツー本やルートガイドだけではなく、山の良さを静かに伝えてくれる随筆、有名登山家や遭難に関するノンフィクションなども興味深い分野ですよ。読むことで読者自身の登山が豊かになる、ということがあります。新入会員

に「読む登山」も勧めていこうというWV部・星征雅部長の発案で、「おすすめ山岳図書リスト」を作成し、配布しました。

波多野 私は「家族登山」普及委員会に所属しています。親子で楽しめる山の食事についてホームページで提案しています。これを、もっと皆さんで楽しんでもらえるものにしたいですよね。

新井 せっかく作ったサイトですから、もっと見ていただきたいですね。たとえば高尾山などでも家族登山普及に関するイベントをやって認知度を上げるとか。

波多野 イベントをすると、何か返ってくるものがあり、広がりが持てそうです。

大久保 もっと活性化させたいのです。そんなとき、皆に身に付けて欲しいことがあります。自分の考えを実現させるには、ちゃんと相手に伝えましょう。特に組織のなかでは重要なこととして、たとえばイベントをやりたい場合、日程、目的、主催者、予算、内容などをできるだけ具体的に書いた書類を作ります。企画書ですね。そして、賛同者を集めます。文字に残していくことも大切だし、文書で

伝えていくことも重要。「いいね」と口にするだけでなく、なるべく具体化していきます。そういう実行力こそ、皆さんに発揮してもらいたいのです。

アウトプットと女性同士の繋がり

森田 具体的な会の仕事ではないですが、アウトプットする機会を作りたいと考えるようになりました。私は、ただ山にすることが好き。楽しくてしょうがない。穂高が大好きで、大好きで。しかし、山にテントを張って登るには技術も必要です。ここ数年、会の先輩たちから学び、だんだんと安全に快適に過ごせる力が身につけてきました。

今まではインプットしてきたので、これからはアウトプットもしていきたい。山登りの経験のない友だちから、教えて欲しいと言われたことがあります。ある程度はアドバイスをできるようになったので、山に登ったことのない人に楽しさを伝えていきたいと思います。山の仲間を増やしたい。何歳から始めても楽しいし、思い立ったら、始めどきだと思ふのです。

山村 私は昨年5月に入会したばかりです。ほかの山岳会にも入っていて、そちらは会社のOBの

方々がメインのグループです。もう少し違うスタイルの登山もしたい、大変な山も登っていききたいと考え、JACに入会しました。JACでいろいろな経験をさせてもらっている、それをもうひとつの山岳会にもフィードバックできるようにしたいと考えています。

柏 私は大学山岳部の先輩に勧められて入会しました。皆さんのような積極的な動機付けではなかったと思います。だから、皆さんがフラットな気持ちでJACのことを考え、参加していることが新鮮で、喜ばしく思います。『山』編集人を4年間やりましたが、実は女性の編集人も初めてだったそうです。理事会にオブザーバー出席すると、野口いづみ理事が『女性が『役職』を頼まれたのならば、なるべく断らない方がよい。私はそうしている』とおっしゃっていました。今の時代にあつて男女差などないというかもしれません。野口理事のような先輩がいらっしゃるから私がやっていけるのだと思っています。今の理事会になったとき、大久保副会長が気さくに話しかてくださって、本当にホッとしました。

大久保 頼まれたら、引き受ける

ことですね。私はそのたびに、人生が豊かになったと思うし、大切なものを与えてもらったと思っています。こんなくしょうと思うこともときどきあるけれど、やってみると、いろいろ楽しいこともあります。ぜひ皆さんもいろいろな参加し、トライしてください。

土井 JACにはいろんな委員会や支部、サークルがありますが、横断的な女性会員のネットワークを作っていくのもよいですね。それが現状や考えていることを持ち寄ると、新しい発想が生まれるかもしれません。また、ぜひこういう機会を持ちたいですね。本日はありがとうございました。

(主催) WV運営チーム



囲む会のあとは、次の山の相談に

【参加者】

大久保春美／副会長

囲む会にあたってのメモ

入会当時は、村井米子さん、佐藤テルさんなどの大先輩も健在だった。小倉薫子さん、山口節子さん、伏見紀子さんはじめ多くの先輩が、新入女性会員を温かく迎える風土があり、交流も盛んに行なわれていた。文部省登山研修所(当時)による女性リーダー研修会が初めて実施されたところでもある。婦人懇談会による海外登山計画を機に若い女性が集まり、登山技術については松永敏郎さんなど男性会員からの指導を受けた。海外登山資金の調達については、西堀栄三郎さんなどが各界への働きかけをしてくださった。今思うと、とても贅沢で貴重な経験であった。こういった経験を、次の世代とも分かち合いたい。

*

新井梓 青年部、WV部、図書委員会
五十嵐百子 WV部、「家族登山」普及委員会 越智かほり WV部、東京多摩支部 柏澄子 会報『山』編集人 杉本美香 WV部、総務委員会 田沼久美子 青年部 土井友子 WV部、「家族登山」普及委員会 波多野葵 WV部、「家族登山」普及委員会 山村湯香 WV部、三水会 森田直子 WV部

UNIVERSAL EVENT

視覚障がい者と山に登る

— 障害者差別解消法施行を前にして —

東海支部ボランティア委員会委員 尾上昇

目の見えない者が

山に行つて

何がおもしろい

目の見えない者を

山に連れていったら

怪我をするに決まっている

どうするのだ

そんな陰口がいつか消えて

山に登るのは

あたりまえになりました

これは、名古屋の視覚に障がいを持つ人たちの交流グループ「はくじょう会」の発行した写真集の中の一文である。

富士見台高原に登る

目の不自由な人との山行は、不安が先行して、なかなか一步が踏み出せないものである。その先駆けとなった団体が、高田馬場の日本点字図書館を拠点とする「六つ星山の会」である。

この六つ星山の会、設立は1982年で、視覚障がい者の山岳会である。構成は障がい者80名、健

常者150名の計230名である。

登山は、実際に視覚に障がいを持つ人だけでは無理なので、サポート役の健常者との混成である。

山行は毎月2回。歴史を重ねて

いる会だけに、サポートの仕方やされ方の手引きが用意されていたり、視覚に障がいを持つ方々の登山技術やサポーター対象の講習会も実施している。さらには触地図の作成、山行案内の「お知らせ」も点字版や音訳CDを作成するなど、活動の充実振りが窺える。

2月6日・7日の両日、この六つ星山の会の定例山行として実施された長野県の恵那山系の富士見台高原に、東海支部も同行させてもらった。これは、六つ星山の会のリーダーで中心的な存在の星野善久氏が早大山岳部のOBで、JACの会員であることのご縁で実現したものである。

1日目は昼神温泉前泊であった。夕食の後の懇親会で友好を深め、翌日、富士見台高原へ登山。参加



六つ星山の会定例山行

者は、六つ星山の会24名、うち全盲4名、弱視4名である。そのほかにYOUTH CLUB委員会の5名がサポーターとして加わっている。YOUTH CLUB委員会の参加は、YOUTH CLUB委員の野沢誠司君が六つ星山の会の星野氏の後輩にあたることと、さらにはYOUTH CLUB委員会の今後の新たな事業展開を視野に入れてのものであった。東海支部は合計10名で、うち全盲が2名である。

2月の厳冬期、1736mの富士見台高原は、例年なら真っ白の雪の中をワカンやスノーシューで歩くのだが、今年は積雪が少なく、登山道には、所々地肌が現れてい

る箇所もあった。神坂小屋から山頂までの15分ほどだけを軽アイゼンを着けて登った。

気温はマイナス1℃、微風、快晴。全員普通の登山パーティと変わらないピッチで、元気に雪山歩きを楽しんだ。六つ星山の会の皆さんは大勢にもかかわらず、慣れた運営と行動が印象的であった。

東海支部の実情

東海支部の視覚障がい者への支援登山の取り組みは2008年秋から始まり、今では春秋2回の山行が実施されている。東海支部では、ブラインド登山と称している。実施グループは、支部に設けられているボランティア委員会である。まだ歴史も浅い。活動の幅や視野を広げるべく、14年秋には全国各支部に呼びかけ、ボランティア山行の情報交換の場を設けた。日本山岳会全体でも取り組んでいる支部はまだ少ない。公益事業の観点からも各支部でもっと力を入れてもらいたいところであるが、課題も多く、実現にはなかなか踏み切れないともいえるよう。

障害者差別解消法施行

今年の4月1日の施行が決まっている障害者差別解消法は、法の

精神として「障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別解消を推進する」ことを掲げており、差別解消措置としての次の2点を挙げている。

- ① 障害を理由に差別的取り扱いや権利侵害する行為を禁止する。
- ② 社会的バリアを取り除くための合理的な配慮をする。

東海支部には、ブラインド登山を通じて3名(全盲2人、弱視1人)がJACC会員として仲間入りした。「見えない」ことで、区別や制限、敬遠という空気が一部あることは否めない。しかし、実際に障がい者の方々に接するとその気持ちは解消されるので、もっと多くの人たちとの接触を心がけたい。

また、機関誌などの情報提供は、本部も支部も活字媒体しかなく、視覚障がい者の方々には目の見える人に読んでもらうしか手立てはない。音訳版やインターネットによる情報の活用が必要だろう。

法律施行の背景には、近年我が国の間で高まってきている障がいを持つ人々への理解の深まりがある。私たちの取り組みは、まさ

に時宜を得たものだといえよう。 障がい者との登山の取り組み

東海支部には、先述のとおりボランティア委員会があり、現在は、視覚障がいを持つ人々と知的な発達に障がいを持つ子どもたちの登山の支援を実施している。そのほか、幼稚園とタイアップして年1回の日帰り登山も支援している。

知的発達の障がい児との登山は、知的発達の障がいを持つ人の世界的なスポーツ団体であるSON・愛知(スペシャルオリンピックス日本・愛知)の要請に基づき、年1回の日帰り登山を実施している。ブラインド登山では、1名に1〜2名のサポーターを付けている。また、SON・愛知からの参加者



富士見台高原での記念撮影

は毎年10〜15名ほどであり、サポーターは、やはり1名に1〜2名が付く。幼稚園児の場合は、安全面への配慮から5名に1名ほどの割合でサポーターを配置する。さらには、危険箇所にはトラロープを固定したり、豚汁やスープを子どもたちに振る舞っているのも、こちらにも10名ぐらいのスタッフが必要となる。主に東海支部の学生部がこれにあたってくれている。

したがって、支援スタッフは、ブラインド登山が10名前後、SON・愛知では20〜30名になる。幼稚園児になると、およそ100名を2回に分けて実施しているので、1回に20名ほどのスタッフが必要となる。東海支部の場合は支部員が350名を超えているので充分賄えているが、少人数の支部では対応が難しいだろう。

言うまでもなく、こうした登山は、自分たちが好き勝手に登るものではない。様々なノウハウや特殊な技術の習得が必要となる。重要なポイントは、やはり安全第一である。お陰様で、これまで一度の事故もなく安全で楽しい登山が実施できている。支援スタッフが十分そのことを認識して取り組

んでいることの現れであろう。

今回の合同登山は、この道の先達である六つ星山の会の活動の実際をこの目で確かめ、自分たちの糧とするための勉強の場でもあった。さすがに日本一の会である。優れたリーダーシップの下での手慣れた支援者のサポート、きびきびして統率された行動、どれを取っても感心させられる。

支援登山とかサポーターなどという言葉がおこがましく感じられる。してやっていると奉仕するというイメージがつきまとうからである。山登りのいいところは、いつ誰とどんな山に行っても、つまらないということが決してないことであろう。前日の懇親会にも参加したが、大いに飲み、大いに山を語り、一緒に山に親しむ仲間そのものである。

健常者と障がい者、単なる言葉の対比にすぎない。一緒に山を登っていると、移ろいゆく自然の営みを感じる感性の鋭さは私たち以上で、はっとさせられる場面に出会うことがたびたびある。

今回の登山を通して教えられることが多々あった。六つ星山の会の皆様に改めて感謝申し上げたい。

『3.11』から『8.11』へ ——「山の日」にほんとうにするべきこと

江本嘉伸

初めての国民の祝日「山の日」が間もなくやって来る。8月11日の当日は上高地で「第1回『山の日』記念全国大会」が開かれるなど各地で盛りだくさんの催しが企画されている。全国大会は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という「山の日」制定の趣旨に対する国民の関心を高め、浸透を図ることで「山と人との関わり方を見つめ直す機会とします」と理念をうたっている。祝日「山の日」はおおむねこの精神でゆくのだろう。が、セレモニーは重要ではない。いま私たちは、もっと切実に山と人の関係を問われているのではないだろうか。

国道6号線

3月最初の週末、福島県の被災地を訪ねた。2011年の3・11以来、ほぼ半年ぶりに通っている。表現は微妙になるが、自身の責任として少しでも原発汚染の現状をこの目で見続けておきたい、という気持ちからである。

いわき市から国道6号線を北上

する。「いちえふ(1F・福島第1原発のこと)」「にえふ(2F・同第2原発)」をつなぐこの国道は、3・11直後から3年間、線量が異常に高く、一切通行が禁止された。私たちは福島駅から大きく北へ迂回し、川俣村、飯館村、南相馬市というコースで何時間もかけて被災地に向いたものである。

14年6月にここを通れるようになって、どんなに被災地へのアクセスが楽になっただろう。ただし、6号線の側道は相変わらず閉じられたまま。車も原則通り過ぎるだけ、停まってはいけない。双葉町に入って線量計の値が、ぐんと上がった。3・11以後、「原発の皮肉」として話題となった、アーチ型の「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は撤去されたばかりだった。

平日なら、7000人といわれる原発作業員、そして延々と続けられている除染の仕事に関わる作業員の送迎のバス、車で賑わう国道は、休日には閑散としている。浪

江町のはずれにあるコンビニもお休みだった。そこに数台の作業車が停まり、作業員たちが屋根に登っている。除染作業だ。「平日はお客様がいっぱいなので、休みしか作業できないんですよ」と、他にまったく人気がない駐車場で作業の責任者は話す。側溝部分はとりわけ念入りに、高圧洗浄をする。

除染の現場

環境省の定義によれば、除染とは、「生活する空間において受ける放射線の量を減らすために、放射性物質を取りのぞいたり、土で覆ったりすること」だ。具体的には、「放射性物質がついている土や草木などを取りのぞく」「(放射線を土やコンクリートなどで)さえぎる」「(取り除いたものを私たちが生活している場所から)遠ざける」行為となる。

11年から15年にかけての5年間で国は1兆9000億円を除染費用として計上した。気の遠くなるような作業だが、着実にきれいになっていく、と南相馬市の友人は言っていた。

里山も、奥山も除染する

「町は、時間をかければ少しずつでも進みますが、山のほうは大変

です。どれほどかかるか……。」と、この日の現場監督は話していた。

住民たちの意向を重く見たか、3月9日、国は新たに森林除染を里山に、そして奥山にも拡大する方針を打ち出した。森の国日本で福島県の森の総面積は全国4位にあたる。広大な森の除染は無理、と昨年12月、環境省の有識者会議が「生活圏外の除染は原則しない」との方針を決めたばかりなのに、だ。しかし、我が家への帰還を希望する住民たちにとっては、少しの汚染も怖いのだ。

山や森の除染をしなくてはならないなんて、誰が想像しただろう。「3・11から8・11へ」。宮城県の津波被災地を含めてこの5年、東北に通う中で、私は国民の祝日「山の日」について、強く3・11との関わりを意識するようになった。ひとつは、石巻市立大川小学校の現場で受けた衝撃である。

大川小の74人の命

あの日、児童たちは教師の指示で校庭に整列して次の指示を待った。誰かが「裏の山に登ろう」と提案した。道はないが、低学年の児童でも何とか登れる傾斜だ。だが、「誰が責任を取るのか」というよう

な声が上位の教師から飛び出し、結局50分も校庭で指示を待つこととなった。

あぐく最後まですぐ近くの山に登ることをせず、平坦な道路を川沿いに避難しようとして津波に吞まれたのである。74人もの尊い幼い命がここで失われた。

何度か現場に立つたび、私は自分たち大人の責任だ、と強く感じるようになった。山を知らない大人が教師になった結果、とも言えるだろう。そういう社会を自分たちはつくってきたのだ。

そして、考えた。あの国立登山研修所に、若い教師たちに山のことを教えるシンクタンクの役割を果たしてもらえないだろうか。

国立登山研修所により広い役割を

ご存知ない向きに説明しておく、この研修所ができたのは、1963(昭和38)年、いわゆる「サンパチ豪雪」で北アルプス薬師岳を目標した愛知大学山岳部の学生たち13人が全員遭難死したことがきっかけだった。当時、サンパチ豪雪のため薬師岳以外でも大学山岳部の遭難が続出し、前途ある大学生をこれ以上山で死なせてはならない、との問題意識で67年、立山

にある現在の国立登山研修所が発足したのである。

素晴らしい講師たちが揃っており、山の国、日本として世界に誇っている施設だと思う。しかし、半世紀を経て現状を見ると、大学山岳部員数は激減し、登山する人の裾野は広がり、山岳遭難の多くを50歳以上の高齢者が占める事態となっている。価値ある仕事をしているのに、知名度がいまひとつ、というのも私はもったいないと思う。国民の祝日「山の日」がスタートするにあたり、国立登山研修所は、もはや遭難対策として機能するだけの存在ではなく、もっと対象を広げて、国民のための「山の研修所」であってほしい、と心から思う。

具体的には、来年迎える研修所50周年を契機に、今年から実施される8月11日の国民の祝日「山の日」の実践を登山研修所の仕事のひとつとすることを提案したい。その中で未来を担う子どもたちを預かる小中学校教師たちに「山」を教える機関であってほしい。

文科省と「山の日」制定議員連盟への期待

私はこの研修所の専門調査委員をしており、何度も会合に出ているので、この提案が簡単ではないことはよくわかつている。現在、日本のスポーツの世界は、1にも2にも、2020年のオリンピックの成功のために、予算を集中させており、おそらく国立登山研修所？ 何、それ？ といった反応だと想像する。

しかし、提起した国立登山研修所の新たな役割は、実は東京オリンピックよりさらに私たちの未来にとつて大事なことである。文科科学大臣にはそのことを深く考えてほしい。

そして、その実現のために、13年4月に発足した超党派『山の日』制定議員連盟の100名の国会議員の皆さんの助力をぜひお願いしたい、と考える。今回、「山の日」が一気に決まったのは、これら国会議員の皆さんの意識の高さ、行動力が決め手となったからだ。議員の皆さんも、山の日を単に山を讃えればいい日、とは毛頭考えておられないだろう。

リニア中央新幹線は必要か？

そして、もうひとつは、リニア中央新幹線をどう考えるか、だ。この会報の昨年2月号(837号)で白鳥勝治会長が「南アルプス

の自然保護とリニア中央新幹線工事について」とのタイトルで書いているほか、自然保護委員会の機関紙『木の目草の芽』が再三取り上げている大事な問題だ。しかし、喫緊の重要な課題なのに、山の世界全体としては、まだまだ注目度は低いように思う。

「夢の超特急」の言葉の裏で、大量の掘削残土をどうするか、川の水涸れは？ など問題は続出している。大がかりな南アルプスの破壊(そう言っているのだと思う)が待っているかもしれない。南アルプスの東端にある町、山梨県の早川町で昨年末に起工式があり、今後7・7kmのトンネル工事が行なわれるという。史上初めて、南アルプスにトンネルが開くことになるのだ。

国のプロジェクトではなく、JR東海が自前で(9兆円もかけて!)やるというこの取り組み、とりあえず待った、をかけてほしい。

リニアについては、うかうかしていた、と感じる。02年「国際山岳年」に「日本に『山の日』を」と提起した責任者(国際山岳年日本委員会事務局長)として、自戒とともに、お願いする。

PROPOSAL

国際委員会の新設と海外委員会および
JAN編集委員会解散のお知らせ

会長 小林政志

これまで、海外委員会は、海外の山岳団体との連携、会員への海外の山岳の紹介など、国際化に欠かせない業務を担ってきました。

一方、JAN編集委員会は、英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニュース』の発行を通じて、日本人の海外登山を海外に英語で発信する唯一の出版メディアとして、広く海外の登山者へ、日本の山と日本人の登山活動を紹介してまいりました。日本人登山家の記録、登山に対する考え方や精神、学術・文化に至るまで、広く海外に知らしめた社会的な功績は計り知れないと思います。長年にわたってその重責を担っていただいた中村保名誉会員のご努力による賜物でした。

しかし、21世紀になって日本を含める国際社会や経済環境、海外の山岳団体なども大きく変容してきました。また、日本山岳会は会員数の減少、高齢化による事業活動の低下、さらにこれに伴う財政状態の悪化などの多くの問題を

抱えております。このため、昨年の秋から理事会では、日本山岳会の再生に向けて、組織の改編を含めて、いくつもの施策を検討してまいりました。

そこで中村名誉会員の意思を継承しながら、日本人登山家による先鋭的な記録、貴重な科学調査などを発信し続け、世界中の登山家が閲覧できるようなネット環境の構築、日本山岳会のWEBサイトの充実を図ることにいたしました。それに伴い、海外委員会とJAN編集委員会の2つの委員会については、平成28年3月末日をもって解散することを決定いたしました。平成28年度(4月以降)には、人心を一新した新組織である国際委員会を立ち上げて、日本山岳会の海外との交流をより密接に展開していく所存であります。国際委員会の委員長には古野淳・前副会長が就任予定であり、その新年度の任務は、4月に予定されているカトマンズでのマナスル初登頂60周年

記念事業、夏に予定されている日中韓3国学生交流登山の主催、ネット版のJAN(旧称)の立ち上げなどが予定されています。

この紙面を借りて、海外委員会およびJAN編集委員会の委員の

マナスル初登頂60周年および国民の祝日
「山の日」施行記念事業のご案内

「マナスル」から「山の日」まで60年、いま未来に伝えることをテーマに、日本山岳会の主催で、映画会、講演会、公開座談会などを開催します。

(1) 映画「マナスルに立つ」短縮版上映

(2) 特別講演 日下田實氏

初登頂当時は振り返るとともに、今後の「山の日」の取り組み指針などを講演いただきます。

(3) 特別講演 石川直樹氏

世界各地を視野に、登山や写真家としてのこれまでの活動を、映像を交えて語っていただきます。

(4) 公開座談会

「これからの登山、冒険と安全、子どもの未来、そして自然の大切さを醸成するために」をテーマに、萩原浩司氏を座長とした座談会。

① 集団登山・学校登山の立場から、長野県山岳総合センター・傘木靖

皆様の現在までのご協力に深く感謝申し上げます。また、新国際委員会に対しては、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

氏。②子どもがたくましく育つための環境づくりの立場から、静岡大学教授・村越真氏。③最先端のクライミング事情を、山岳ガイド・花谷泰広氏。④多様化する女性の山の楽しみ方について、山岳ライター・小林千穂氏。

(5) 展示会1

マナスル登山に関する日本山岳会所蔵品展示や資料、DVD放映など。

(6) 展示会2

「ネパール大地震の実態と復興支援(主にランタン谷)」に関するパネル展、7月10(日)〜23(土)。

期日：平成28年7月10日(日)

場所：JICA市ヶ谷ビル

*キッズルームを開設し、お子さんの一時保育を行います。

*メールで申込を受付けます(担当大久保 ygb00247@nifty.com)。

*問合せ先はJAC事務局。

OVERSEAS

プラハ国際アルピニズム・フェスティバル2015 Prague International Alpinism Festival 2015

2015年11月20〜22日にチェ

コのプラハで恒例の第12回プラハ・フェスティバルが開催された。

中村が招待されたのは今回が3度目で、講演のテーマは「禁断の南チベット——ブルースカイ・エクスペディション2014」。フェスティバルは盛況で約3500名が参集した。講演ホールは300〜400席。

主宰者…

・オーストリアの国立公園Hohe



教会正面の会場案内ボード

Tauern (主)

・チェコのHUDY Sport (副)

・オーストリアのチロルとチェコのロック・ポイント(主)

・チェコの5番街地区(副)

中村保



フェスティバル講演ホール

プラハ・フェスティバルはヨーロッパ大陸最大級の山岳イベントのひとつであるが、オーストリア登山文化を色濃く反映している。

今回はオーストリアとともにスロベニアの参加が目を惹いた。スロベニア・アルプスはなかなかで

ある。ポーランドとスロバキアのタトラ山塊と同様アルパイン・クライミングのよきゲレンデである。今回は参加しなかったが、スロベニアのスーパー・クライマー、マルコ・プレゼリさんは健在である。

スピーカーは外国から12名(オーストリア4名、スロベニア2名、ネパール2名、スウェーデン1名、スイス1名、ポーランド1名、日本1名)、チェコ11名。

スペシャル・ゲストはスロベニア大使、Hohe Tauern代表、アン・ツェリン・シエルパ(ネパール山岳協会会長)、中村(UIAA名誉会員)ほか2名。

講演の中で次の2人のスピーカーが特に中村の注意を惹いた。



オーストリア山岳会会長(右)と筆者

①チェコのフリークライミングのチャンピオン、Adam Ondraのプレゼンテーションはフェスティバルの締めくくりに行なわれた。いわばハイライトで、フリークライミングがオリンピック種目に入るせいか、話題性を提供した。

②オーストリアの気象士で山岳ガイドでもあるAlbert Leichfriedの、四川省・四姑娘山山塊双橋溝(溪谷)のアイスクライミングの詳細なガイドには意表を突かれた。昨今、内外のクライマーが注目しているだけに、主宰者の着目に敬意を表したい。

東 西 南 北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

ウェストン師は笠ヶ岳に登っていない

木下喜代男

私は飛騨山脈の麓に住んで、山に登るかたわら飛騨の登山史を調べ、郷土史研究会の紀要などに発表したりしている。

特に明治中期から昭和初期にかけて槍・穂高連峰や笠ヶ岳などで実践された登山は、日本の近代登山史そのものだが、それを支えた飛騨のガイドたちのことなどを調べていると、新しい事実が見つかってまことに面白い。

さて、ウェストンが3度目にしで念願の笠ヶ岳に登頂したことはよく知られていることだが、彼の手記を読んでいて以前から気になっていることがあり、昨年の夏に現地で検証をしてみた。

周知のとおり、明治25、26年と

蒲田集落で案内人を求めたが、いずれも案内人不在の理由で断られ、3度目の挑戦は明治37年の8月であった。

同行者は名古屋に住む聖公会宣教師ハミルトン(カナダ人)と、英語に堪能な同志社の学生浦口文治。7月中旬に蓮華温泉から大蓮華山(白馬岳)へ登頂したあと松本へ出て、安房峠経由で平湯へ下り蒲田へ。村長の甚兵衛宅へ行って跡取り養子に交渉すると、またしても「夏祭りで樵や猟師は不在で案内する者はいない」の一点張りで埒が明かなかった。あきらめかけていると、通りかかった栃尾の奥村市次郎という若い猟師が案内を引き受けてくれ、中尾の中島市衛門という猟師頭を紹介してくれた。二人の話は、「蒲田の人々は、笠ヶ岳の崖や谷に強大な山の精がさまよっていて、ここへよそ者を連れ込んだら里の作物がめっちゃめち

やにされてしまうと信じており、それを行なった者は制裁が加えられる」というもので、再三断られた理由がこれで分かったのである。笠ヶ岳の頂には阿弥陀如来などが祀っており、異教徒の入山はもつてのほか、というわけであった。

彼らの勧めでその夜遅く宿を中尾の中島宅へ移し、案内は中尾の猟師山本竹次郎と、奥村市次郎がしてくれることに決まった。

以下、ウェストンの手記『日本アルプス登山と探検』のカッコ内の傍線部分を検証する。

8月2日、3時に出発し穴毛谷を遡行。標高1500m(三ノ沢出合)から雪渓を歩く。穴毛大滝を左に見て、杓子平へ出る。杓子平から左の雪の斜面を登り、主稜線に出ている(今の笠新道の旧道)。ここで猟師は岩にロウソクを立て、山の霊に祈っている。

「痩せ尾根の頂点を極めた時気づいてみると、双六川の谷間を見下ろしていた」

私は穴毛谷にはかなり詳しいが、ここまでの記述にならおかしいところはなかった。問題はこの先

「私たちは右に折れ、北東へ鋭い尾根に沿って頂上まで突き進ん

だ」

ここで左へ折れなければならないが右に折れ、北東の抜戸岳方面へ向かっている。おそらくガスで笠ヶ岳の主峰は見えなかったのだろう。

「双六川の谷間へ落ち込んでいる左側の斜面は主に這松に覆われている」

紙面の関係でこの後の検証の詳細は省くが、頂上の地形、眺望などの記述から、明らかに笠ヶ岳ではなく、抜戸岳(2812m)へ登頂していることが分かった。

頂上にあつたケルンのこととは、書いてあるが、文政年間に播磨が頂上に安置した仏像のことにはなら触れられていない。

地元の猟師がなぜここへ導いたかはいろいろな推測が可能だが、今回は省くことにする。

登山史を書き替えることになるこの小稿に、天国におられるウェストン師はさぞ驚愕しておられることだろう。いや、もうそんな下界の些事には拘らない境地に達しておられるはずだ。

海外の山の石

鈴木正規

私が山の石に興味を持ち、集めるようになったのはもう60年も前のことだ。山が好きで山に登るようになったのだから、その山を構成する岩石の組成や地層・分布に興味を持ったのは当然だが、私の場合、そうした学術的な研究と同時に、山腹や山頂に転がっている変哲もない石にも、なんとなく心惹かれるのである。

一番最初は何がきっかけだったか、もう今となつては記憶もない。ただ、山頂に登った記念にそこらに転がっている石ころをいくつかザツクの底にしるばせるようになっていた。自分で言うのもおかしいものだが、北海道から九州の北半分まで、数にしたらどのくらいの山頂に登っただろうか、ちよつと数えきれない。私がまだ行っていない地域は九州南半と四国の一部の山だけである。その登った山頂のほとんどから石を拾ってきた。それがダンボール箱や木箱に詰められ、住まいのあちこちに押し込んである。最初のころはこの山

頂から拾ってきたかを記入もせず、どこの石か分からなくなってしまうものも多い。

そんなことをしているうちに、どんな石でもよいという気持ちから、なんとなく形のよい石を選ぶようになった。だが私は、割ったり磨いたりして人工的に形を整えた石には興味がない。天然のままに山の臭いがあつて、山を想わせ、自然を連想させる形を持った石、それと私に強烈な印象を与えた山の石だけだ。それらは常に私に悠久の昔のロマンを偲ばせ、山恋をかき立てる原動力となっている。

エベレスト(8848m)

エベレストBC付近のモレーンをルートから少し外れている。例によつて石への欲求が高まつてきたためだ。期待に違わず、イメーjordおりの石が見つかった。純白の岩肌は雲母がびっしり着いていてさらに美しく、私のコレクション中でも白眉といつてよいだろう。

ヌン(7135m)

ヌンのC3のアイスフォール中の下降はクレバスが広がり、ルートは変化し、突然砕石帯が現れ、持てるだけ羽毛服のポケットに詰めた。地球の芯から押し上げられた

花崗岩は今、私のかたわらにある。

マッキンリー(6191m)

5400mで猛吹雪と雪崩で前途が危ぶまれたが、ウエストバツトレスの上部から岩稜が続く西稜上で拾った石。

モン・ブラン(4807m)

私はベースとするシャモニの街からモン・ブランの下を貫く15kmのトンネルを通つてしばしば越境する。そのイタリア側出口のすぐそばにミアージュ氷河の末端が延びる。アングル探しの私の眼に、頂に新雪を冠した富士山を思わせる小さな石が飛び込んできた。

白頭山(2750m)

冬の白頭山。中国では長白山と呼ぶ、中国東北部の国境線上の最高峰。今から約1000年前に大噴火を起こしたアスピーテ式の火山で、山頂には天池と呼ばれる周囲15kmの火山湖が満々と水を蓄えている。その天池での石である。

D41峰(5813m)

カシミールの一峰。頂上は岩場の頂と雪の頂がある。C1から見たところでは雪の頂が高く見えるが、プラトーに出ると岩場の頂が高いことは確かである。その岩場の頂の石を拾った。

支部

だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

北海道支部

アイスクライミング研修

「銀河の滝」氷壁を登攀

1月27日～28日の2日間、大雪山・層雲峡溪谷の「銀河の滝」でアイスクライミング研修を行なった。参加者は8名。

銀河の滝は高さ100mに及ぶ層雲峡溪谷の中で一番大きな滝であり、夏は岩盤を優雅に流れ落ちる渓谷の白眉だが、冬は全面に凍り付き一大氷壁となる。

27日、折からの低気圧接近で吹雪状態の中を午前11時に銀河の滝駐車場に集合。昼には少し風が弱まったので石狩川を徒渉して滝の取付点へ。寒気が猛烈に厳しい中での研修を開始。下段40mの水壁に3本のルートを設定、トップロープによりアイスクライミング研修を行なった。それぞれが3本のクライミングと確保を実践して午

後3時に終了。入浴食事後、民宿の食堂に集まってクライミング談義が続いた。

翌28日も吹雪模様の中、2班に分かれ研修。溪谷は強風が轟音を立てて吹き抜け、昨日より一段と寒気が厳しい。一班4名は講師の指導のもと銀河の滝の左側に沿って上まで登攀。下段40mは氷壁、中段40mは水の上に雪が乗っている状態をラッセル。上段30mはバーチカルの氷壁をクリアし、下降も3回の懸垂下降で取付点に戻った。

もう一班は3名は、下段で前日のアイスクライミングを反復研修を繰り返して、12時に終了。

(京極紘二)

越後支部

越後支部創立70周年記念事業について

越後支部創立は昭和21(1946年)年12月5日であり、2016(平成28)年に支部創立70周年を迎えることになります。山崎幸和支部顧問(元支部長)を委員長とした「越後支部70周年記念事業委員会」を立ち上げて検討を進めてきました。主要記念事業がまとまり、その内容についてご紹介します。

1・4月9日(土)・10日(日)全国支部懇談会を越後支部で開催。岩室温泉を会場にして記念講演と交流会を、弥彦山城を中心に春の山野草を見ながらの登山。



銀河の滝下段氷壁のクライミング

2・『新版 日本三百名山登山ガイド』における支部会員執筆の21座を、支部会員による全山登山。3月27日浅草岳から11月3日御神楽岳まで、21座を登頂計画。

3・7月25日(月)に第59回高頭祭を従来どおり実施。越後支部の「山の日」記念行事(70周年記念事業)として取り組む。

4・12月10日(土)に支部年次晩餐会と記念式典開催を予定。記念講演は越後支部の70年を振り返り、今後の支部活性化につなげる。

以上の記念事業の中で、目玉企画の「日本三百名山越後支部会員執筆21座全山登山計画」について説明します。過去の越後支部では、各周年記念登山を6回実施。創立記念登山は苗場山(昭和22年6月)、20周年は新潟県境全踏査縦走(昭和41年3月～6月)、30周年は苗場山(昭和51年6月)、40周年は猪ヶ森山(昭和61年10月)、50周年は越後駒ヶ岳(平成8年9月)、60周年は平ヶ岳(平成18年9月)を行ないました。

70周年記念登山は、昨年の越後支部年次晩餐会で発表されました(日本三百名山は昭和52年に日本山岳会が選定したもので、ガイド

ブックも出版されています)。平成26年日本山岳会110周年記念事業の一環として新版を出版。この『新版 日本三百名山』のうち21座は、越後支部会員の執筆によるもので、当初21座のいずれを記念登山するか協議してきました。しかし、どの山を選定し登るかとなるとなかなか決まらず、「執筆会員をリーダーとして支部会員総力を合わせて21座全山登頂しよう」と決定しました。ただし、リーダーの担当執筆会員が、高齢やその他の理由により登山できない状況も発生したことから代役を立て、登山日程や登山コース選定などを調整し、計画策定まで半年近くを費やしました。

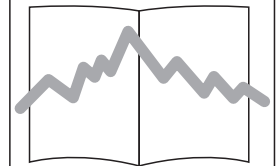
この21座全山登山計画は、下記の日程・山名(リーダー)で実施されることになりました。①3月27日浅草岳(桐生恒治)、②4月24日二王子岳(高橋正英)③5月14・15日金北山(藤井与嗣明)、④5月22日守門岳(浅野亘寛)、⑤5月29日米山(橋本正巳)、⑥6月5日栗ヶ岳(遠藤俊一)、⑦6月19日巻機山本間宏之、⑧6月24・25日佐武流山(佐藤レイ子)、⑨7月2日火打山(七澤恭四郎)、⑩7月3日妙高山

公益社団法人 日本山岳会越後支部
越後支部ペナント

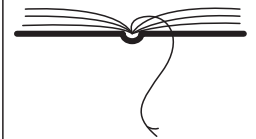
山(七澤恭四郎)、⑪ 7月9・10日
杵差岳(石山政雄)、⑫ 7月16・17
日焼山(蘆本修二)、⑬ 7月24日苗
場山(井春文)、⑭ 8月20・21日平
ヶ岳(櫻井昭吉)、⑮ 8月28日越後
駒ヶ岳(楡井利幸)、⑯ 9月11日八
海山(吉田理二)、⑰ 9月18・19日
中ノ岳(和田守)、⑱ 10月1・2日
鳥甲山(宮崎幸司)、⑲ 10月12・13
日雨飾山(後藤正弘)、⑳ 10月22日
青海黒姫山(後藤正弘)㉑ 11月3日
御神楽岳(阿部信二)のスケジュール
で実施します。

なお、JAC越後支部のマーク
入りペナントを製作して、各山頂
でペナントを掲げて記念写真を撮
ってもらうことにしています。こ
れらの登頂写真や山行記録をまと
めて、なんらかの形で発表したい
と考えています。

(越後支部長 遠藤家之進正和)



図書紹介



スキーアルピニズム研究会編 山スキー百山



2015年11月
山と溪谷社
A4判 280頁
定価 2800円+税

「百名山」という単語が巷でフツ
ーな言葉となつて久しい。ちよつ
と嫌気がさすこともしばしばであ
る。年末に書店に立ち寄った折、A
4の大きくて白っぽい本が平積み
されているのを見て「また百名山
本か」と通り過ぎようとした。もう
一度目を落とすと百名山ではなく
「百山」、そして「山スキー」の文字
が見える。手に取つてパラパラめ
くつてみた。滑ったことのあるル
ート、行きたいと思つていたルー
ト、自分の知らない山が次々に目
に飛び込んできた。しかし、次の
予定が詰まつていて、中身をじつ

くり見ることなく書店を出てしま
った。

気にかかつていた本を手元に置
いて内容に目を通してみた。北海
道から大山まで、およそ山スキー
の対象になる100の山々が網羅
されている。対象の山ごとにルー
ト紹介があり、多い山では10本も
のルートが紹介されている。ルー
トはすべて地形図で正確に示され
ているので、安心だ。山ごとに山
域概要、アプローチ、アドバイス
などがあり、ルートごとに適期、グ
レード、コースガイド、参考タイ
ムが載っている。

この本を見ながらどこへ行こう
か、どんな計画にしようか、と仲
間同士でワイワイ相談するもよし、
独りでじっくりルート研究するも
よし、いずれにしても経験を積ん
だ山スキーヤーにとっては、使い
のある本ができて嬉しい限りだ。
ただし、経験の浅い者がこの本

だけで計画に落とすのは、グレイ
ドの低いコースに限定した方が無
難であろう。グレードの高いコー
スについては、山域、コースを自
分なりにイメージしたら、経験者
に自分の考えをぶつけてみよう。
そして、経験者と一緒に計画を立
ててみよう。きっといろいろな気
付きを得ながら計画立案の楽し
みも会得できるであろう。そんな使
い方もできる良書だと感じた。

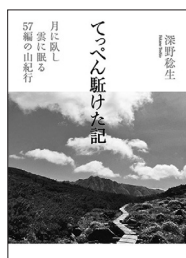
本書には、いくつかのコラム記
事が挟まつている。夏に沢登りで
たどったルートを積雪期にスキー
で下る楽しさ、初滑降ルートへの
挑戦、日本オートルートのエピソ
ードなど、雪山を自在に闊歩する
アルピニストたちの思いが伝わっ
てくる。

最近の報道によって、バックカ
ントリという言葉が悪者扱いさ
れかねない風潮が見られるが、ス
キーの機動力を活かした雪山登山
は半世紀以上も前から存在する。
先輩山スキーヤーたちが積み重ね
た経験とノウハウ、そして楽しさ
が、本書にはバックされている。
そういえば、本書には、「バック
カントリ」という言葉は出てこ
ない。スキーアルピニズム研究会

メンバーの凜然とした姿が眩しい。
(山田和人)

てっぺん駆けた記

深野稔生著



2015年11月
白山書房
A5判290頁
定価 2000円+税

まさに「てっぺん駆けた」気分に
させてくれる一冊である。

著者は1942年生まれ。仙台
在住で日本山岳ガイド協会所属・
無名山塾仙台塾長という立場にあ
る。若いころは山岳会で技術を向
上させ、ヒマラヤ登山も経験され
ている。

その長い体験に裏打ちされた体
力・技術に加え、年齢に反比例する
がごとくの探究心で技術や装備に
創意工夫を凝らし、「体軸歩行」を
身につけ、「軽くてぺらぺら?」Low
Shoestが歩く楽しさを教えてく
れた(第三章)と言いつ、「シンプル
なザックこそ野生自然に似合っ
ている」(第四章)として、全国の
山々を駆け抜けるのである。全57
篇には槍・穂高もあれば六甲全山

縦走、熊野古道、そして東北の木
蕨山や荷葉岳といった名の知れぬ
山も登場する。「スキー・フルージン
グ」(第五章)も含めて、その多くが
「One Day」山行である。登山口に
車中泊して未明に出発し、その日
のうちに帰着するスタイルである。
ああ、このルートならテントと小
屋泊まりの2泊で行ったな、と思
って読み進めると何か違う。文末
の記録(時間・距離・累積標高差な
ど)を見て一瞬目を疑う。たとえば、
白馬岳を大雪溪から登り、雪倉岳、
朝日岳を経て樽海新道をまっしぐ
らに親不知へ、その日のうちに到
着するのだから。しかも、こうし
た山行のほとんどは70歳前後のも
のだというのだから驚く。

全六章から成り、章の初めには
プロローグ的な一文がある。これは
ブックデザイン的なことであるが、
そこにある写真は右半分、頁を
繰ると左半分が表れる形でおしや
れである。

奥秩父主脈縦走やスキー行の折
の全装備リストが写真で示されて
いて、老若問わず山行のヒントが
得られると思う。多くの人に読ん
で欲しいと思う。

著者のこうした取り組みや文章

のテンポなどから類推してみると
大変若い気持ちをお持ちだと感じ
る。長年の経験に凝り固まってい
ることを反省させられる。かとい
って、決して著者の山行スタイル
を安易に真似てはいけない。経験
に裏打ちされた著者だからこそ可
能なことであることを忘れてはい
けない。

(荒井正人)

柏澄子・大武美緒子著

はじめてよう! 山歩きレッスンブック



2015年6月
JTBパブリッシング
A5判 128頁
定価 1200円+税

私が山を始めたとき、こんな本
があったらどんなによかっただろ
う。本書は、何年かの登山経験を
経て段々と分かってくるような山
の基礎知識を、余すところなく、楽
しく学べる女子のための山歩き入
門書である。

章立ては、一章「山歩きのプラン
ニング」、二章「山ウエア」、三章
「山道具」四章「山ごはん」と行動
食」、五章「歩き方」、六章「小屋
に泊まる」、七章「山のマナー&い

ざに備える」となっており、山デビ
ューを果たしたい初心者はもちろん
のこと、山の知識を見直したい
と思っている中級者にもお勧めの
内容となっている。

山に少し興味があっても、詳し
い人が周りにいないと始め方が分
からないものだ。その点、本書は
山が初めての人でも取り組みやす
いヒントが満載だ。たとえば、山
歩きのプランニングでは、歩ける
かどうか心配な人には、低山より
御岳溪谷など観光地の遊歩道ハイ
キングを勧めている。登山よりも
ハードルが低く、自然の中で歩く
ことの楽しさを実感できるだろう。
自分の体力を知り、もつというい
ろんな山に挑戦したくなったら、低
山、尾根歩き、山小屋泊、アルプ
スへとステップアップできる道筋
が、初心者にも分かりやすく書か
れている。字は細かいが、写真や
地図、イラストも多く、すつきり
と配置されており見やすい。縦走
やピストンなど、語句説明もあり
がたい。

山ウエアの選び方も、「山ウエ
アが必要なワケ」から始まり、レ
イヤリングのコツ、強みと弱みを知
って選ぶ防寒着など、山ウエアの活

かし方を素材と機能の面から丁寧に解説している。最初にすべて揃えられなくても、NGとなる服装、代用になるもの、山道具をレンタルする方法も合わせて紹介している。

ほかに、山のトイレ事情や山小屋の宿泊など、女性ならではの不安や疑問にも答えてくれる。個人的には、女子のお悩み対処法の中で、山でのメイクアイテムの実例が、写真とともに紹介されているのが楽しい。

本書あとがきで、著者は、編集にあたって人それぞれである山歩きにハウツーはあるのか悩んだことを明かし、「本書では、必ず守りたい原則をお伝えし、皆さんがそれぞれの山歩きを見つめるためのヒントをちりばめました。」とする。考え抜かれた丁寧な内容と、この本をベースにしてそれぞれの楽しい山歩きを見つけてほしいという著者の思いが伝わってくる。山に興味を持ってくれた友人に、そつとプレゼントしたい本だ。著者は、

（井上優美）

図書受入報告(2016年2月)

著 者	書 名	頁/サイズ	発 行 者	発行年	寄贈/購入別
正津勉	山水の飄客 前田普羅	222p/19cm	アーツアンドクラフツ	2016	個人寄贈
澤村修治 (編著)	宮澤賢治、山の人生	151p/19cm	エイアンドエフ	2016	出版社寄贈
宮家準	霊山と日本人 (講談社学術文庫 No.2347)	330p/15cm	講談社	2016	出版社寄贈
石川直樹	ぼくの道具	240p/19cm	平凡社	2016	出版社寄贈
芳賀孝郎	私のシュプールI : ハガスキーの歴史と私の登山	253p/19cm	北海道新聞社出版センター	2016	著者寄贈
信濃毎日新聞社編集局 (編)	検証 御嶽山噴火 : 火山と生きる - 9.27 から何を学ぶか	264p/21cm	信濃毎日新聞社	2015	出版社寄贈
羽根田治	野外危機回避マニュアル	192p/19cm	地球丸	2016	出版社寄贈
日本山岳画協会 (編)	山に魅せられた画家達 : 日本山岳画協会創立 80 周年記念画文集	120p/21cm	日本山岳画協会	2016	発行者寄贈
法政大探検部 (編)	法政大学探検部 50 年史 1965 ~ 2014	343p/26cm	法政大探検部・同OB会	2015	発行者寄贈
天野賢一 (編)	スリランカ・ルフナ地方の密林遺跡	274p/30cm	法政大探検部	1999	探検部OB会寄贈
奥アマゾン探検隊 (編)	奥アマゾン探検の記録 1973 ~ 76	274p/30cm	奥アマゾン探検隊	2012	金子浩氏寄贈
スキーアルピニズム研究会	山スキー百山 : 山スキーの先駆者たちが選んだ、登って滑るべき日本の山 100	280p/30cm	山と溪谷社	2015	編者寄贈
岡田喜秋	旅に出る日 (ヤマケイ文庫)	318p/15cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
横山勝丘	アルパインクライミング考 : Alpine Climbing	422p/19cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
A.オノド (著) 堀内瑛司 (訳)	アローン オン ザ ウォール : 単独登攀者、アレックス・オノドの軌跡	342p/20cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
山と溪谷社 (編)	日本の火山 : 国内 30 の火山活動を検証する	160p/21cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
太田昭彦	山の神さま・仏さま : 面白くするために山の神仏の話 (ヤマケイ新書)	237p/17cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
武内正・石丸哲也	日本の山を数えてみた : データで読み解く山の秘密 (ヤマケイ新書)	238p/18cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
野村仁	もう道に迷わない : 道迷い遭難を防ぐ登山技術 (ヤマケイ新書)	206p/18cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
山と溪谷社 (編)	山のバズル : 脳トレで山の知識が身につく (ヤマケイ新書)	208p/18cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
羽根田治	山岳遭難の教訓 : 事例に学ぶ生還の条件 (ヤマケイ新書)	254p/18cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
山と溪谷社 (編)	日本の山はすごい! : 「山の日」に考える豊かな国土 (ヤマケイ新書)	206p/18cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
天野一郎	にっぽんの山上集落を訪ねて	166p/19cm	白水社	2016	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第1巻) : 北海道・東北の山	388p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第2巻) : 南会津・越後の山	374p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第3巻) : 谷川岳	276p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第4巻) : 東京近郊の山	257p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第5巻) : 剣岳・黒部・立山	292p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第6巻) : 後立山・明星山・海谷・戸隠	296p/19cm	白水社	2015	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第7巻) : 槍ヶ岳・穂高岳	268p/19cm	白水社	2016	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第8巻) : 八ヶ岳・奥秩父・中央アルプス	306p/19cm	白水社	2016	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第9巻) : 南アルプス	325p/19cm	白水社	2016	出版社寄贈
柏瀬祐之・他 (編)	日本登山大系 [普及版] (第10巻) : 関西・中国・四国・九州の山	461p/19cm	白水社	2016	出版社寄贈
Edward Morgan	Lhotse South Face - The Wall of Legends -	320p/20cm	Bee different Books	2015	中村保氏寄贈



平成27年度第10回(2月度)理事会 議事録

日時 平成28年2月10日(水)19時00分～21時10分

場所 集会室

【出席者】小林会長、吉川・大久保・山田各副会長、神長・佐藤各常務理事、勝山・中山・野口・大槻・落合・山賀・直江・星・谷内各理事、平井・重廣各監事

【審議事項】

1・神奈川支部の設立について
支部に関する規定第5条に基づいて提出された書類により、神奈川支部設立申請について審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

2・平成27年度(後期)海外登山助成対象登山の審査結果について
海外登山助成対象登山隊審査委員会の審査を通過した東海支部ワディントン山群登山隊と北海道大

学カムチャツカ遠征隊の2隊について審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

3・海外登山助成金の予算外支出について
前期において支出している4隊の助成金合計額がすでに年間予算である50万円を超過しているが、後期審査を通過した前記2隊について助成を認めることとした。(賛成15名、反対なしで承認)

4・100万円を超える予算外の支出について
「親子で楽しむ山登り」サイトの制作費用など、3件の100万円を超える予算外支出について審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

5・寄付金および助成金について
寄付金・助成金受入の事前申請3件および助成金受入報告1件について審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

6・平成28年度特別事業補助金の

募集について

支部事業委員会による平成28年度「特別事業補助金」の募集について審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

7・入会希望者の承認

28名の入会について別添資料により審議した。(賛成15名、反対なしで承認)

【協議事項】

1・マナスル初登頂60周年記念事業(国内)の実施について(大久保)

マナスル初登頂60周年および国民の祝日「山の日」施行記念事業の実施概要および予算案について協議した。

2・準会員の制度化に伴う定款等の検討について(佐藤)

準会員の制度化に伴う定款および定款施行細則の改定、準会員規程の新設等について協議した。

3・終身会員制度の検討について(吉川)

終身会員制度を改定することについて協議した。

4・会報「山」発送業務の変更について(神長)

発送経費圧縮の観点から発送業者および梱包形態の変更について

協議した。

【報告事項】

1・日本山岳ガイド協会からの「安全のための知識と技術公開講座」への後援名義使用について承認した。(佐藤)

2・越後支部に対して全国支部懇談会への補助金を支出することとした。(吉川)

3・各委員会の平成28年度予算の査定状況について報告した。(吉川)

4・各支部・委員会から報告のあった平成28年度事業計画案が示された。(佐藤)

5・第1回「山の日」記念全国大会実行委員会の概要と準備状況について報告した。(大久保)

6・マナスル初登頂60周年記念事業のうちネパールにおいて実施される事業についてその概要を報告した。(佐藤)

7・物故会員の「偲ぶ会」等について、要請があればHP・メルマガ等を通じて周知することとした。(佐藤)

8・『エベレスト 神々の山嶺』ポスターの支部への配布について(佐藤)

9・「山」2月号の発行について
(神長)

【連絡事項】

- 1・日本勤労者山岳連盟第32回総会 2月20日(土)13時～ 晴海グラ
ンドホテル
 - 2・日本ブータン友好協会第36回
通常総会 2月27日(土)14時～ 早
稲田大学14号館
 - 3・富士山測候所を活用する会第
9回成果報告会 3月13日(日)13時
～ 東大・小柴ホール
 - 4・神奈川支部設立総会・記念講
演会・パーティー 3月19日(土)神
奈川大横浜キャンパス
- 【今後の予定】
- 1・第4回小島鳥水祭 4月16日
(土)10時～ 高松市
 - 2・東海支部総会 5月21日(土)
17時～ グランドティアラ名古屋
本店
 - 3・3月度常務理事会 3月1日
(火)18時30分～ 集會室
 - 3月度理事会 3月9日(水)19時～
集會室
 - 4・予算・事業計画等・平成28年
2月29日(月) 平成27年度事業報告
提出期限

・平成28年4月4日(月) 平成27年
度会計報告提出期限

ルーム日誌 2月

- 1日 総務委員会
- 2日 常務理事会 スケッチクラ
ブ
- 3日 図書委員会 山行委員会
- 4日 YOUTH CLUB 緑
爽会
- 5日 高尾の森づくりの会 フォ
トビデオクラブ
- 8日 YOUTH CLUB ス
キークラブ
- 9日 山岳研究所運営委員会
- 10日 理事会 フォトビデオクラ
ブ 山想倶楽部
- 12日 YOUTH CLUB 山
岳地理クラブ
- 15日 総務委員会 資料映像委員
会 スケッチクラブ
- 16日 スキークラブ バックカント
リークラブ マウンテンカル
チャークラブ
- 17日 マナスル登頂60周年記念事
業WG 三水会 つくも会
- 18日 科学委員会 休山会 みち
のり山の会
- 19日 九五会

- 20日 山の自然学研究会
- 22日 公益法人運営委員会 「山
の日」事業委員会 図書委
員会 フォトビデオクラブ
- 23日 デジタルメディア委員会
遭難対策委員会 YOUTH
CLUB
- 24日 自然保護委員会 麗山会
00会
- 25日 財務委員会 学生部 緑爽
会 01会 山遊会
- 26日 総務委員会
- 28日 YOUTH CLUB
2月来室者 497名

会員異動(2月分)
津川昌平(3885) 16・2・10
物故

INFORMATION

インフォメーション

◆大峰奥駆け道(吉野く前鬼縦走)
のご案内 山行委員会

熊野古道「大峰奥駆け道」の北
半分を巡ります。奈良・吉野から
山上ヶ岳、行者還岳、八経ヶ岳、釈

- 野村哲也(4691) 16・2・13
茨木 弘(5017) 16・2・24
青木正樹(6047) 16・2・17
秋山宏明(7427) 16・2・9
西山登代子(13083) 16・2・20
五十嵐辰美(15539) 16・1・30

退会

- 横田明男 (6848) 京都・滋賀
池本慶一 (11723) 関西
福光正行 (12404)
福光直子 (12405)
関口洋介 (14487)
松井由起子(14743)
後藤 尚 (14826) 静岡
前田純子 (14895) 東海
宇津木仁典(15314) 千葉



迦ヶ岳に登り前鬼に下ります。た
だし、女性には山上ヶ岳が女人禁制
のため、山頂手前の五番関から洞
川へ下山。一泊後行者還トンネル
登山口から弥山小屋に登り男性と

合流。それほど険しくありませんが1日10時間近く歩くので健脚の方を募集します。

日程 5月5日(木)～9日(月)

集合 5月5日(木)13時00分 近鉄

吉野駅

解散 5月9日(月) 9時30分 近

鉄大和上市駅

宿泊 5日吉野山の旅館、6日山上ヶ岳龍泉寺参籠所、7日弥

山小屋8日前鬼小仲坊女性

は6日洞川温泉旅館。

参加費 4万5000円(宿泊、食

事、懇親会費用、保険、写真、

通信費)

申込み 4月10日までに会員登録、

氏名、性別、生年月日、電話

番号、携帯電話番号、住所を

明記の上、そやみき 征矢三樹宛

☒ sanko@jac.or.jp

FAX 03-3770-4228

申し込みの方に、詳細案内をお送りします。

◆登山リーダーのための「救急救助講習会」

山行委員会

登山リーダーが習得しておくべき「救急救助に関する知識・スキル等について、実技中心に学びます。会員はもとより会員外の方々

の参加も歓迎します。

日時 6月19日(日) 10～17時

場所 立正大学品川校舎(JR大

崎駅より徒歩七分)

講師 恵秀彦会員(遭難対策委員

会)

定員 25名 費用 500円

申込み 山行委員会清登緑郎

TEL 090-93225-8258

☒ sanko@jac.or.jp

*参加者に詳細を案内します。

◆第32回東北・北海道地区集会のご案内(再録) 秋田支部

日時 2016年7月30日(土)～31

日(日)

会場 国民宿舎森吉山荘 秋田県

北秋田市森吉字湯ノ岱14-1

TEL 0186-76-2334

費用 1万6000円

内容 《集会・懇親会》7月30日(土)

午後3時～集会3時30分～

記念講演・民族芸能6時～懇

親会 《交流山行》7月31日(日)

Aコース 森吉山登山

Bコース 赤水沢・桃洞滝散策

申込み ①会員番号②氏名③性別

④住所⑤電話番号⑥交流山

行希望コース⑦交通手段を

明記し、各支部で「参加申込

書」に取りまとめて左記事務

局へメール、FAX、郵送で

お申込み下さい。〒010-

0817 秋田市泉野1-2

14 鈴木方 日本山岳会秋

田支部事務局 TEL・FAX 018-

823-2708

☒ akt@jac.or.jp

締め切り 平成28年4月30日(土)。

会場の都合上先着60名とし

ます。

各支部事務局あてにご案内を差

し上げております。

*本稿は2月号に掲載しましたが、

連絡先に文字の脱落がありました。

お詫びして訂正稿を再録します。

◆中村好至恵「山の絵展」

日時 4月4日(月)～10日(日)11～19

時(最終日は16時まで)

場所 みつい画廊 横浜市中区吉

田町5-1

TEL 045-261-3721

問合せ 中村好至恵 〒241-

0825 横浜市旭区中希望

が丘209-54

TEL 045-261-3321

☒ pisces33@m3.dion.ne.jp

「山の絵」Hd

http://yamane.jimdo.com

◆編集後記◆

●4年間務めた編集人、今号が最後です。もつとがんばりたかった

ですが、一身上の都合含め限界に

なりました。当初思い描いていた

半分も到達できませんでした、

わずかながら歩を進めてきました。

●最後の巻頭が、大久保春美副会

長と若手女性会員の懇談会になり

ました。女性という枠組みでモノ

を語ることは、いまの時代ナンセ

ンスだと、正直思っています。し

かし文中で私が申し述べたことは、

すべて本音であり、また幾人もの

女性の先達がいたからこそ、いま

の私たちがあると思っています。

●次は、節田重節大先輩にお役を

お願いします。私は今後も委員会

に残り、いつ何時でも原稿を書く所

存です。ご指導ご協力いただき、あ

りがとうございました。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 850号

2016年(平成28年)3月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 小林政志
編集人 柏 澄子
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社